ESOTERIC

P-01

D00836500A

SUPER AUDIO CD

目　次

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

特　長

さらに進化したSACD用VRDSメカニズム
（マグネシウム製ターンテーブル及びSS400ブリッジ採用）

VRDSメカニズムは、ディスクと同径のターンテーブルにディスクを確実にクランプさせることによりディスク自身の持つ固有振動やメカニズム系の不要振動を徹底排除し、ディスクにゆるやかな傾斜を与えることによりディスクの反りや歪みを矯正するメカニズムです。さらに、光学ピックアップとディスクのピット面の相対光軸精度が向上するため、ディスク読み取りエラーの減少やクロック回路へのタイミングエラー発生防止にも効果を発揮します。
P-01には、SACD用に要求される高速回転と飛躍的な精度を実現するために、比重がアルミの2/3で振動吸収性に優れたマグネシウムのターンテーブルを採用しました。さらに精密ボールベアリングをペアで使用し、ブリッジには20mm厚のSS400を使用して10mm厚の鉄製フレーム構造に直結しています。

ネオジウムマグネット採用のコアレス式モーター

大径ターンテーブルをSACD用に高速回転させるために、長寿命3相ブラシレス・スピンドルモーターを新開発しました。精密ボールベアリングで強固に固定されたターンテーブルと相まって、回転ムラと振動を徹底的に抑えています。ネオジウムマグネットによる磁気回路は磁場解析などにより最適化され、モータードライブ電流の変動を少なくして、オーディオ回路などへの影響を減らしています。

光軸の傾きを発生させないピックアップと速度帰還制御スレッド送り

光ピックアップに高剛性の軸摺動方式を採用することによって、レンズが傾かず、レーザー光軸は常に垂直に保たれます。スレッド送り部分にはエソテリックオリジナルのホール素子検出型3相ブラシレスモーターを使用し、高速アクセス用には速度帰還制御を行うことによって、応答性に優れ、途切れのない滑らかな連続移動が可能になりました。

音質に悪影響を与える内外部振動を徹底排除する高剛性ボディコンストラクション

メカニズムを支えるシャーシには10mm厚、質量4.52kgのスチール製ボトムフレームを採用。外装部にはフロントパネル、天板・底板・側板とも肉厚のアルミ材を採用し、ボディ全体をESOTERIC独自の焼入鋼ピンポイントフット(特許出願中)で支持。メカニズム取付けの高精度化と筐体の高剛性・無共振化を徹底しています。気品のあるショ

ートスクラッチで仕上げた肉厚のアルミ材のフロントパネル、天板・底板・側板、さらに曲線を採用した四隅のコーナー部にも採用したアルミ材のデザインは、筐体の高剛性・無共振化と共に最高峰のSACD/CDトランスポートにふさわしい品位と風格を醸しだしています。

電源部と本体部を完全分離

電源ユニットはあえてトランスポートの性能をフルに発揮させせるため本体より分離しました。しかも電源はメカニズム・モーター駆動用、より正確にピックアップのデータを読み取るための信号処理用とアップコンバーター、クロック回路などのデジタル信号処理用の3トランス構成。なお、メカニズム・モーター駆動用とデジタル信号処理用のトランスには電流のロスが少ない瞬発力の優れたWBトランスを採用しています。

CDのアップコンバート機能

デジタルオーディオ出力は、高精度水晶発振器(温度特性を含め±3ppm)の採用とDSRLL III回路により、ジッターの低減とアップコンバートが行われ出力されます。CD再生時はアップコンバート機能により最大fs192kHzで出力可能です。
SACDはDSD信号(1bit64fs)のまま出力されます。

デジタルオーディオ出力端子

出力端子は、アップコンバート出力としてXLR×1系統(ES-LINK出力時はL, R, C, SW, LS, RSの6端子、Dual AES出力時はL, Rの2端子、XLR出力時はL/R端子を使用します)、RCA×1系統(L/R端子)、IEEE1394×2系統を装備し、アップコンバート機能のない出力としてRCA(NORMAL)×1系統を装備しています。
RCA端子からは、SACDは出力されません。

SACDのデジタル出力を可能にした、エソテリックの独自フォーマットES-LINK

SACDのデジタル出力は、XLR端子を使ったESOTERICの独自フォーマットES-LINK、またはIEEE1394インターフェースにより出力されます。XLR DUAL出力が選択されている状態でSACDを再生すると、自動的にES-LINKフォーマットでの出力となります。現時点でES-LINKに対応しているD/Aコンバーターは、ペアとなるESOTERICモノラルD/Aコンバーター「D-01」のみです。

WORD SYNC（ワード シンク）

WORD SYNC機能により、外部からのWORDクロックに同期することができます。入力可能周波数は、44.1/88.2/176.4/48/96/192/100kHzです。WORDクロックと出力Fsが同じ周波数のときには、WORDクロックと出力デジタル信号の位相差を10°以内にする仕様としました。入力ポジションには、通常のINモードとRb INモードがあり、Rb INが選択された場合には、ルビジウムのような高精度クロックとの同期に特化したPLL回路が選択されます。

内部配線材、電源のDCケーブル線材にも最高性能を追求

内部配線材や付属ACケーブルと電源ユニットと本体をつなぐDCケーブルには、高純度6N銅を導体に使って、ピュアーで高分解能とテクスチャアーを併せもつサウンドを追求しました。6N銅線材の被覆には音質と環境性を考慮したポリオレフィンを使っています。 またその他の線材の被覆も、PVCを使わないものとしました。この高純度6N銅ケーブルはESOTERIC「MEXCEL」インターコネクトケーブル、8N銅パワーケーブルと同様に株式会社アクロジャパンの協力により共同開発いたしました。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

一般的な注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

行為を指示する記号

電源プラグをコンセントから抜け

一般的な強制

警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

万一、異常が起きたら

煙が出たり、変なにおいや音がするときは。
機器の内部に異物や水などが入ったときは。
この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。

すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。

⚠警告	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
	電源コードを傷つけない。 **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。** コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。
	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
	この機器のカバーは絶対に外さない。 カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。
	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 また、接続は指定のコードを使用する。
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器は約28kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。 湿気やほこりの多い場所に置かない。 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	ディスクの挿入口に手を入れない。 特にお子様にはご注意ください。けがや故障の原因となることがあります。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

使用上の注意

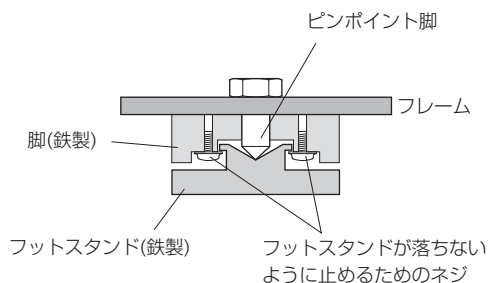
付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げげになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源コード×1
DC電源接続コード×2
リモコン(RC-985)×1
リモコン用乾電池(単3)×2本
フェルト×8枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

設置について

本機の底板には、工具鋼を焼き入れ処理した高硬度ピンポイント脚と鉄製の脚が強固に取り付けられています。

フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。

● 本機は大変重いので、設置の際は、けがをしないように十分ご注意ください。

● 床を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

● 右の前脚を回して、ガタつきがないように高さを調節してください。

電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。付属の電源コードのプラグ部分に、PSE が刻印されている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。PSE が付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。
ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

使用上の注意

● 本機の上には物を置かないでください。

● 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。

● 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。

● ガラスドア付きラックに設置した場合、ガラスドアを閉めたままリモコンのOPEN/CLOSEボタン(⏏)を押してディスクトレーを開けないでください。強い力でディスクトレーの動きが妨げられると、故障の原因になります。

● 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

● 安定した場所に設置してください。

● テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1〜2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

ディスクについて

下の表に表示されているマークはディスクレーベル、またはジャケットに付いています。本機はこの表のディスクをアダプターなしで再生することができます。
この表のディスク以外は再生できません。

本機で再生できるディスクの種類とマーク

上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

● DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCDなどは再生できません。

● DVD-ROM、CD-ROMなどは再生できません。

● コピーコントロールCDなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

CD-R/CD-RWについて

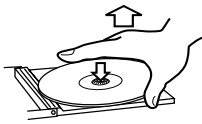
本機は音楽CDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。

● CDレコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。

ディスクの品質、記録の状態によっては再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。

ディスクの取り扱い

● ディスクはレーベル面を上にしてセットしてください。

● ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

● 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは画質・音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

● レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

● 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には放置しないでください。

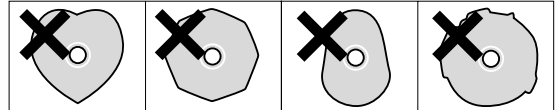
● レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

● 再生が終ったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。

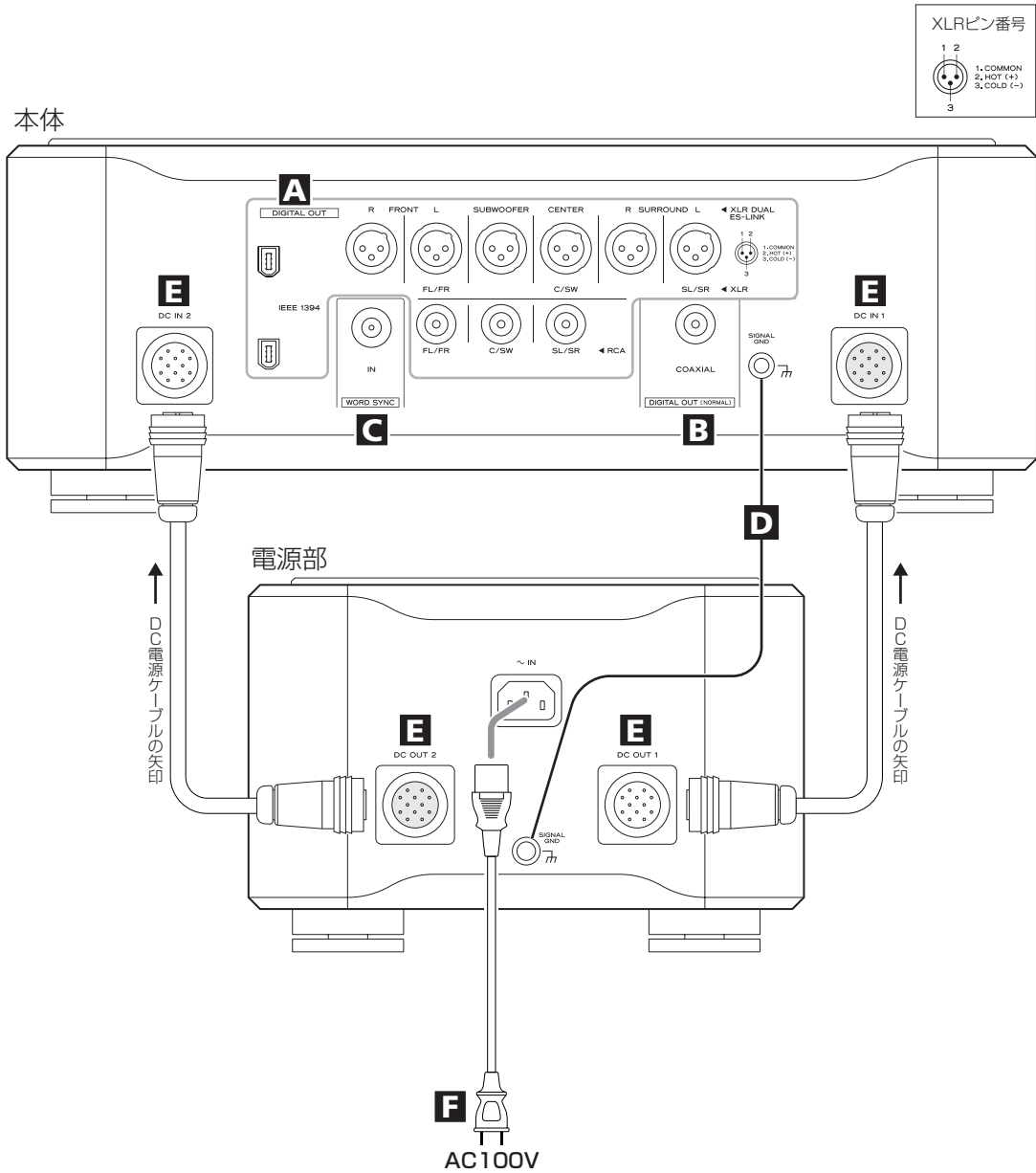
● ディスクにラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

● 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。

● ヒビが入ったディスクは使用しないでください。

● ハート形や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

● 本機はVRDSターンテーブルメカニズムを使用していますので、ディスクのレーベル面が汚れていると、ディスクがターンテーブルに貼り付いてしまう原因となります。ディスクのレーベル面に汚れがついたら、柔らかい布などで拭き取ってください。

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

A デジタル音声出力端子

デジタル音声を出力します。D/Aコンバーター(D-01など)のデジタル入力端子と接続してください。

接続には市販のケーブルをお使いください。
XLR : バランス型XLRデジタルケーブル
RCA : RCA同軸デジタルケーブル
IEEE1394(i.LINK) :
S400対応の6ピンのi.LINKケーブル
(IEEE1394ケーブル)

SACDのデジタル音声を出力するためには、エソテリックのES-LINK対応のD/Aコンバーター(D-01)、またはIEEE 1394端子(i.LINK(AUDIO)端子)のあるD/Aコンバーターが必要です。

エソテリックのD-01またはD-70と接続する場合は、14～16ページの接続例をご覧ください。

D/AコンバーターにIEEE 1394端子がない場合は、P-01のFL/FR(XLRまたはRCA)をD/Aコンバーターのデジタル入力端子と接続してください。この場合、SACDのデジタル音声は出力できません。

- IEEE1394端子(i.LINK(AUDIO)端子)は、接続した機器との双方向のデータ転送が可能なインターフェースです。入力/出力の区別はありません。
- 現時点では、RCAのC/SW端子とLS/RS端子からはデジタル音声を出力しません。ES-LINK対応機器が接続されていない場合は、XLRのC/SW端子とLS/RS端子からもデジタル音声を出力しません。将来、バージョンアップしてDVDオーディオの再生が可能になると、DVDオーディオのマルチチャンネルのデジタル音声を出力できるようになります。

B デジタル音声出力端子(NORMAL)

通常のデジタル音声を出力します。
本機のデジタル出力端子(NORMAL)を、市販のRCA同軸デジタルケーブルを使って、デジタル録音機器(CDレコーダーなど)のデジタル入力端子と接続します。

- この端子を使うときは、「デジタル出力端子(NORMAL)の設定」(D-OUT Norm)をONにしてください。(33ページ)
- SACDのデジタル音声は出力できません。
- アップコンバートした信号は出力できません。

C ワードシンク入力端子[WORD SYNC IN]

同期信号を入力します。
市販のBNC同軸デジタルケーブル(インピーダンスが75Ωのもの)を使って、D/Aコンバーターまたはマスタークロックジェネレーターのワードクロック出力端子(WORD SYNC OUT)と接続してください。

D アース端子[GND]

本体と電源部のSIGNAL GNDを市販のビニール電線でアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

エソテリックでは、リファレンスとして**エソテリック MEXCEL ストレスフリー7N**ケーブルを使用しています。エソテリック **MEXCEL**ケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	XLRデジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	BNCデジタルケーブル
RCAデジタルケーブル	スピーカーケーブル

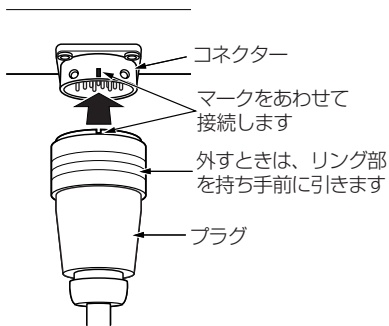
E DC電源入出力端子

本体のDC電源入力端子と、電源部のDC電源出力端子を、付属のDC(直流)電源接続コード2本を使って接続します。

DC OUT 1 → DC IN 1
DC OUT 2 → DC IN 2

- DC(直流)電源接続コードには矢印が印刷されています。矢印が10ページの図の向きになるように接続してください。
  DC(直流)電源接続コードの凹凸と矢印の向きを確認してプラグ部を持ち、プラグとコネクターのマークを合わせて、カチッと音がするまで確実に押し込みます。外すときは、リング部を持って手前にまっすぐに引き抜いてください。抜き差しするときに、プラグを斜めにしたり揺らしたりしないでください。

- DC(直流)電源接続コードを抜き差しするときは、電源スイッチは必ずオフにしておいてください。

- DC(直流)電源接続コードを抜き差しするときは、リング部に指を挟まないようご注意ください。

F 電源コード

電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

i.LINK（IEEE1394）

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。
本機のIEEE1394端子(i.LINK(AUDIO)端子)にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったSACDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってSACDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システムDTCP(Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。
本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps(S100)、200Mbps(S200)、400Mbps(S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。
接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK(AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーはデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。

- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。

- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。

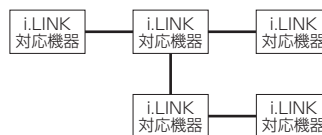
- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。

複数のi.LINK機器を接続するには

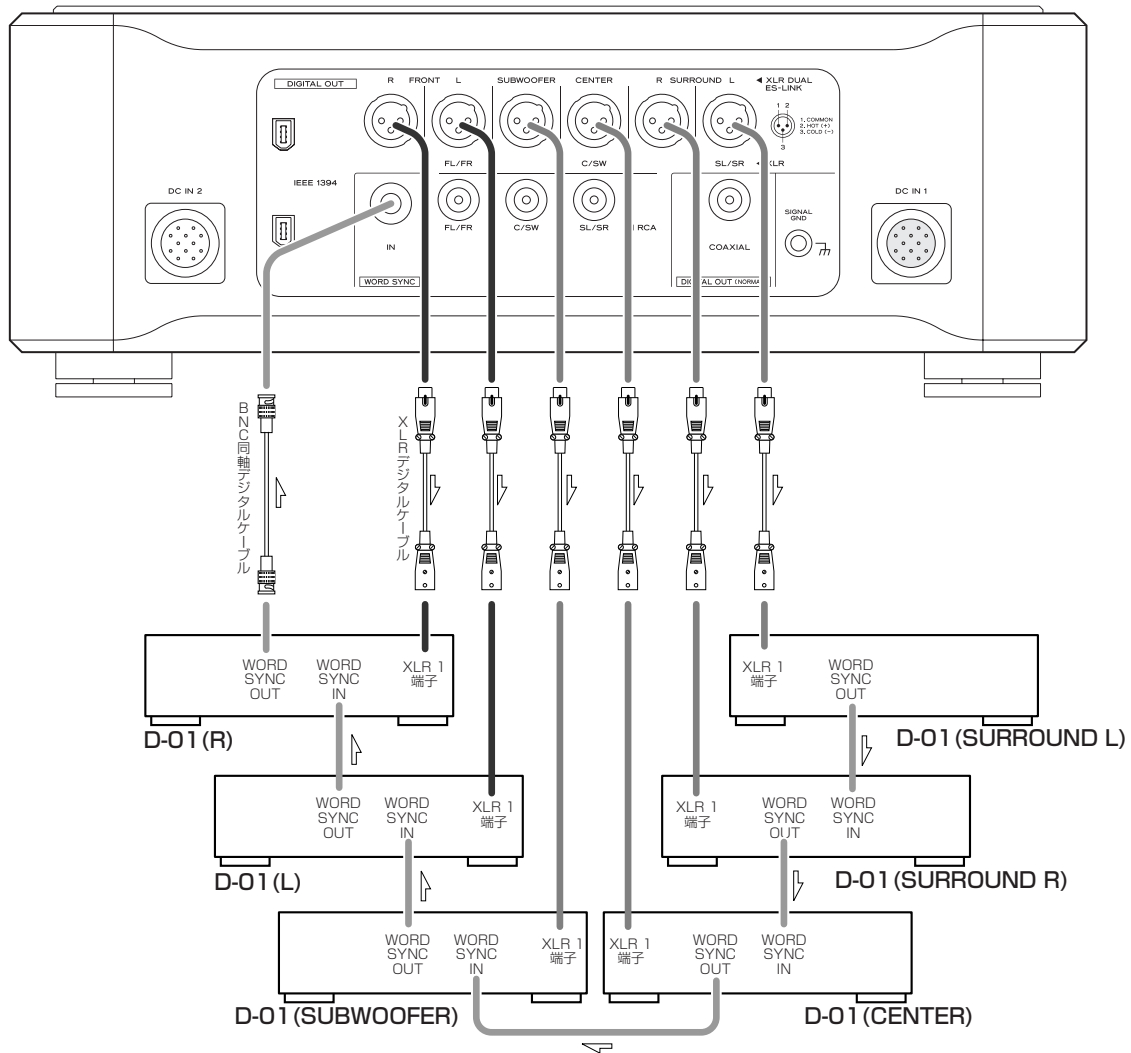
デイジーチェーン接続（数珠つなぎ）

数珠つなぎに一列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。

ツリー接続

i.LINK端子が3個以上ある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。

信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。

この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0
この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、SACDに対応しています。

接続例（D-01との接続/XLR端子を使う場合）

2台のD-01と接続する場合は、P-01のXLR端子(FRONT LとFRONT R)を、それぞれD-01のXLR(1または2)端子と接続します。D-01が6台ある場合は、残りのXLR端子も同様に接続します。
ワードシンク端子は図のように接続してください(順不同)。

クロックジェネレーターG-0/G-0sを接続する場合は、G-0/G-0sの6個のワードクロック出力端子(WORD CLOCK OUT)を各D-01のWORD SYNC INに接続し、G-0/G-0sのユニバーサルクロック出力端子(UNIVERSAL CLOCK OUT)をP-01のWORD SYNC INに接続してください。

P-01＋2台のD-01＋G-0/G-0sの接続例は、別紙「初めにお読みください」をご覧ください。

本機の設定

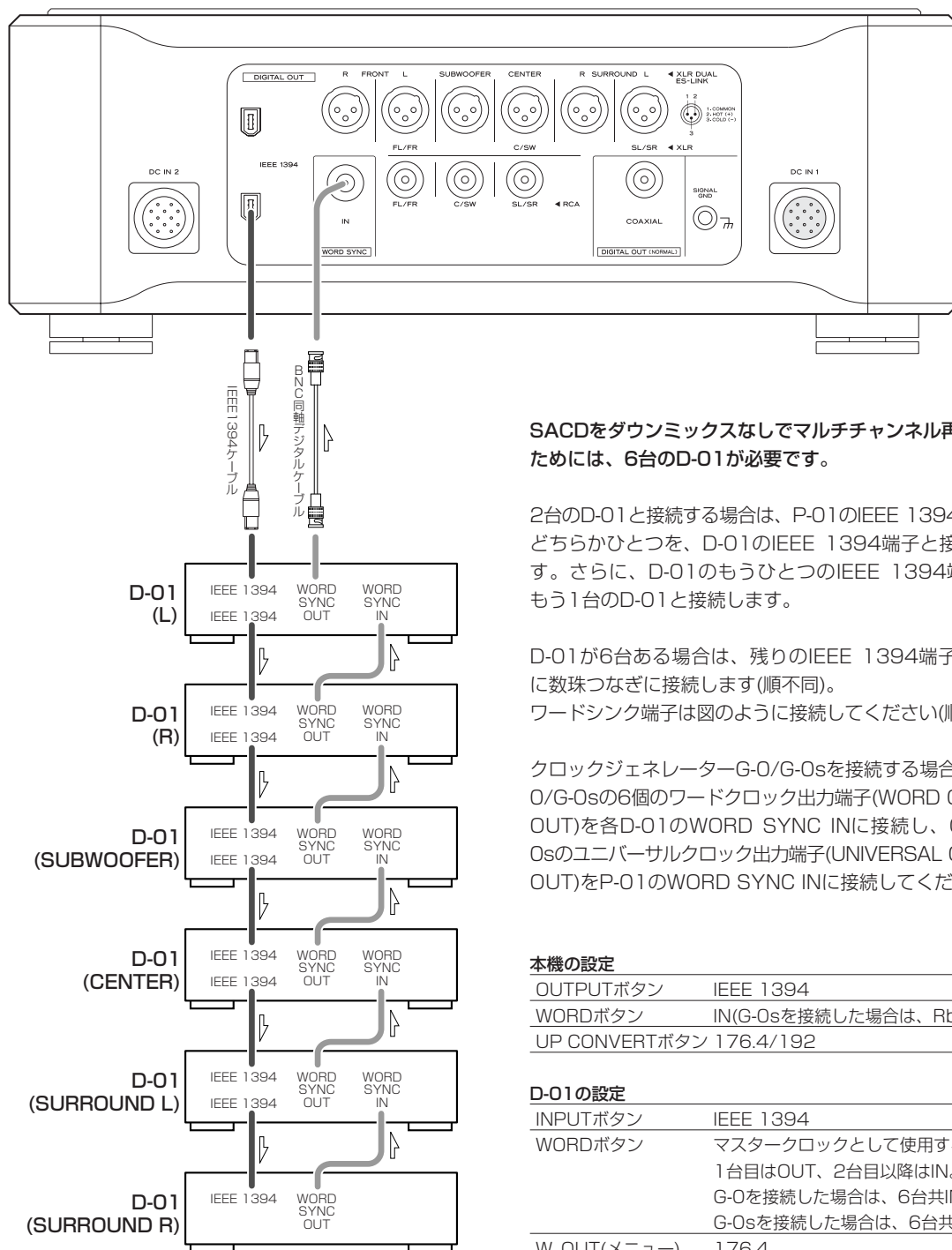
OUTPUTボタン	XLR DUAL
WORDボタン	IN(G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

D-01の設定

INPUTボタン	XLR 1または2
WORDボタン	マスタークロックとして使用する 1台目はOUT、2台目以降はIN。 G-0を接続した場合は、6台共IN。 G-0sを接続した場合は、6台共Rb IN。
W_OUT(メニュー)	176.4
CH_SEL(メニュー)	該当するチャンネル

G-0/G-0sの設定

周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHz
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

接続例（D-01との接続/IEEE 1394端子を使う場合）

SACDをダウンミックスなしでマルチチャンネル再生するためには、6台のD-01が必要です。

2台のD-01と接続する場合は、P-01のIEEE 1394端子のどちらかひとつを、D-01のIEEE 1394端子と接続します。さらに、D-01のもうひとつのIEEE 1394端子を、もう1台のD-01と接続します。

D-01が6台ある場合は、残りのIEEE 1394端子も同様に数珠つなぎに接続します(順不同)。
ワードシンク端子は図のように接続してください(順不同)。

クロックジェネレーターG-0/G-0sを接続する場合は、G-0/G-0sの6個のワードクロック出力端子(WORD CLOCK OUT)を各D-01のWORD SYNC INに接続し、G-0/G-0sのユニバーサルクロック出力端子(UNIVERSAL CLOCK OUT)をP-01のWORD SYNC INに接続してください。

本機の設定

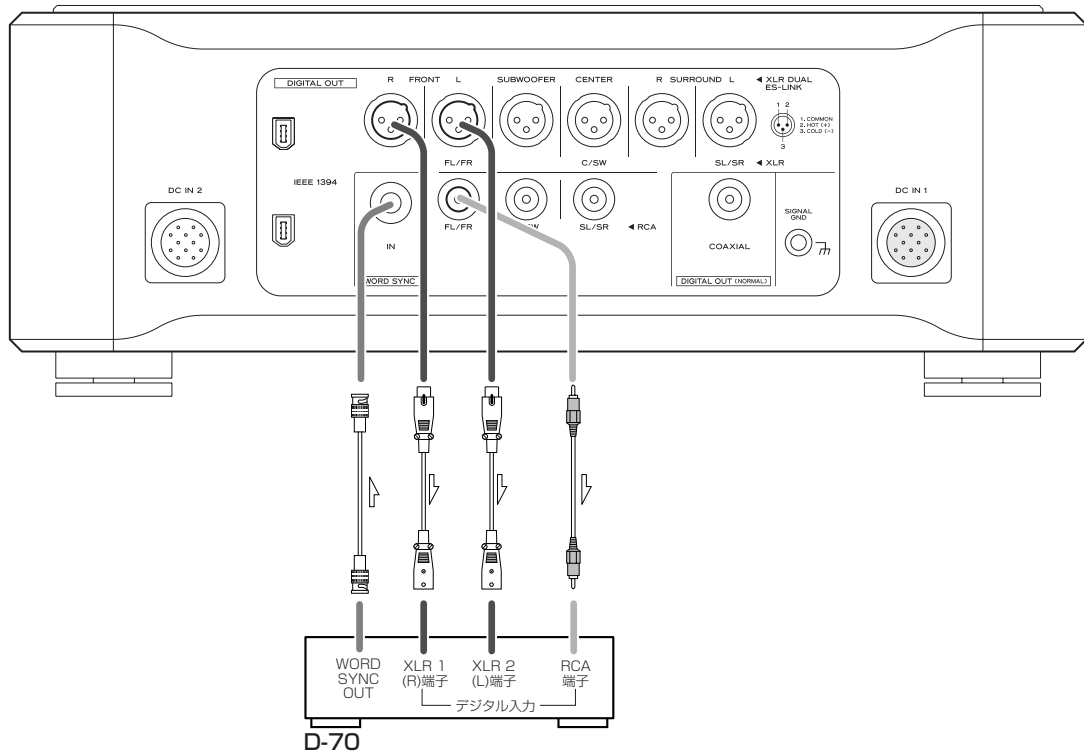
OUTPUTボタン	IEEE 1394
WORDボタン	IN(G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

D-01の設定

INPUTボタン	IEEE 1394
WORDボタン	マスタークロックとして使用する 1台目はOUT、2台目以降はIN。 G-0を接続した場合は、6台共IN。 G-0sを接続した場合は、6台共Rb IN。
W_OUT(メニュー)	176.4
CH_SEL(メニュー)	該当するチャンネル

G-0/G-0sの設定

周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHz
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

接続例（D-70との接続）

1台のD-70と接続する場合は、P-01のP-01のXLR端子(FRONT LとFRONT R)を、D-70のデジタル入力端子(XLR1とXLR2)に接続します。
XLRデジタルケーブルがない場合は、RCA同軸デジタルケーブルを使ってP-01のFL/FR端子をD-70のデジタル入力端子(RCA)と接続することもできます。

クロックジェネレーターG-0/G-0sを接続する場合は、G-0/G-0sのワードクロック出力端子(WORD CLOCK OUT)を、D-70(バージョンアップ)とP-01のWORD SYNC INにそれぞれ接続してください。G-0/G-0sがない場合は、D-70のワードシンク出力端子(WORD SYNC OUT)とP-01のWORD SYNC INを接続してください。

将来、D-70がバージョンアップしてIEEE1394に対応すれば、SACDのデジタル音声を受けられるようになります。

本機の設定

OUTPUTボタン	XLR DUAL
WORDボタン	IN(G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

D-70の設定

INPUT SELECTOR	XLR
AES3 INPUT	DUAL
ワードシンク設定	マスターモード176.4 G-0/G-0sを接続した場合は、インプットモード(IN M1またはIN M2)

G-0/G-0sの設定

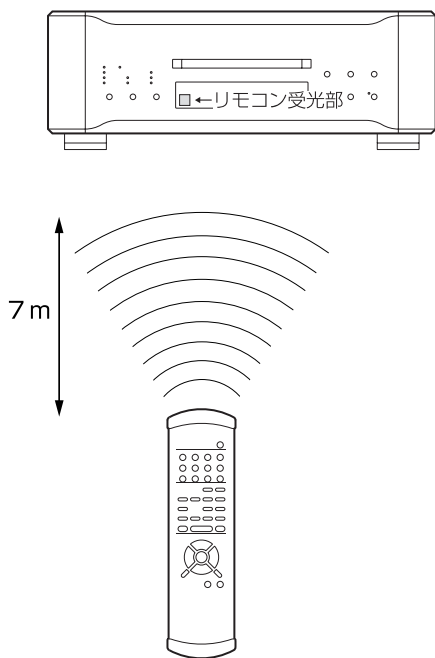
周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHz
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

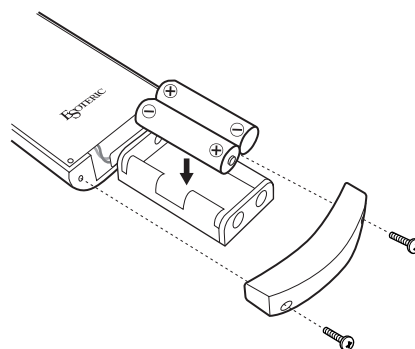
リモコンの使い方

使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。

- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。

- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させせることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

ドライバーを使ってリモコン下部のフタを外し、電池ケースを引き出してください。⊕と⊖の向きを確認して乾電池(単3形)2本を入れたら、電池ケースを戻し、フタを閉めてください。

電池の交換時期は…

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池についての注意

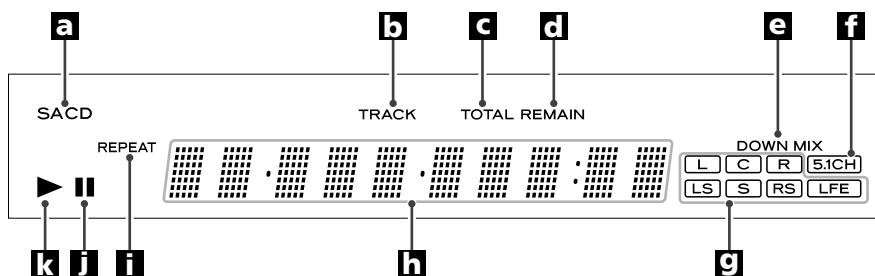
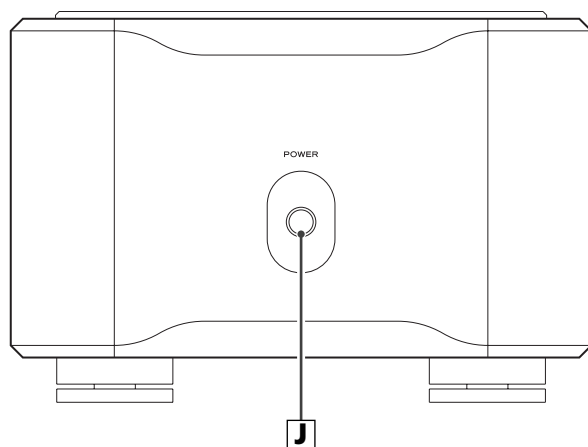
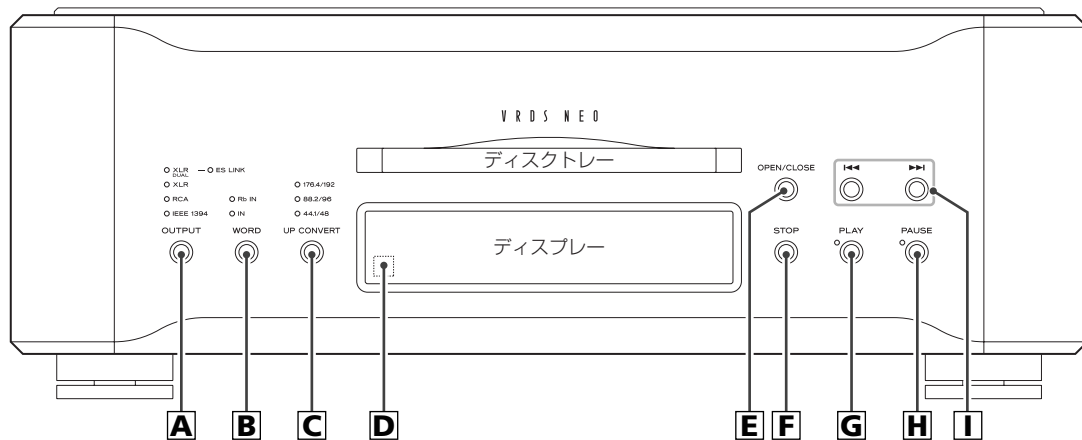
⚠ **乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。**

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

各部の名称（本体・電源部）

VRDS NEO
ディスクトレー
OPEN/CLOSE
XLR DUAL
ES LINK
XLR
RCA
IEEE 1394
Rb IN
IN
176.4/192
88.2/96
44.1/48
OUTPUT
WORD
UP CONVERT
ディスプレー
STOP
PLAY
PAUSE
A
B
C
D
E
F
G
H
I

POWER
J

a
b
c
d
e
f
SACD
TRACK
TOTAL
REMAIN
DOWN MIX
REPEAT
L
C
R
5.1CH
LS
S
RS
LFE
k
j
i
h
g

A 出力切換ボタン [OUTPUT]

デジタル出力を切り換えます。D/Aコンバーターが接続されている端子を選んでください。選択した出力のインジケーターが点灯します。(22ページ)

B ワードボタン [WORD]

ワードシンクのオン(INまたはRb IN)とオフを切り換えます。オン(INまたはRb IN)にすると、外部入力クロックをマスターとしてシンク動作します。選択したモードのインジケーターが点灯します。オフのときはインジケーターが消灯します。(29ページ)

C アップコンバートボタン [UP CONVERT]

アップコンバートの倍率を切り換えます。選択したモードのインジケーターが点灯します。(30ページ)

D リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。(17ページ)

E オープン/クローズボタン [OPEN/CLOSE]

ディスクトレーを開閉します。(24ページ)

F 停止ボタン [STOP]

再生を停止します。(24ページ)

G 再生ボタン [PLAY]

ディスクを再生します。再生中はインジケーターが点灯します。(23ページ)

H 一時停止ボタン [PAUSE]

再生を一時停止します。一時停止中はインジケーターが点灯します。(24ページ)

I スキップボタン [|◀◀ / ▶▶|]

前または後ろにスキップします。再生中に1秒以上押し続けると再生スピードが変わります。(25ページ)

J 電源ボタン [POWER]

電源のオン/オフを切り換えます。電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く光ります。

a ディスクインジケーター

セットされているディスクの種類(SACDまたはCD)を表示します。

b トラックインジケーター

トラック番号を表示しているときに点灯します。(28ページ)

c トータルインジケーター

総再生時間の表示中に点灯します。(28ページ)

d リメインインジケーター

残り再生時間の表示中に点灯します。(28ページ)

e ダウンミックスインジケーター

マルチチャンネルの音声をダウンミックスして出力しているときに点灯します。(27ページ)

f 5.1チャンネルインジケーター

音声出力の設定が「Multi ch」のときに点灯します。(27ページ)

g チャンネルインジケーター

再生中の音声チャンネルが点灯します。

h メッセージ表示部

再生時間など各種メッセージが表示されます。

i リピートインジケーター

リピート再生中に点灯します。(27ページ)

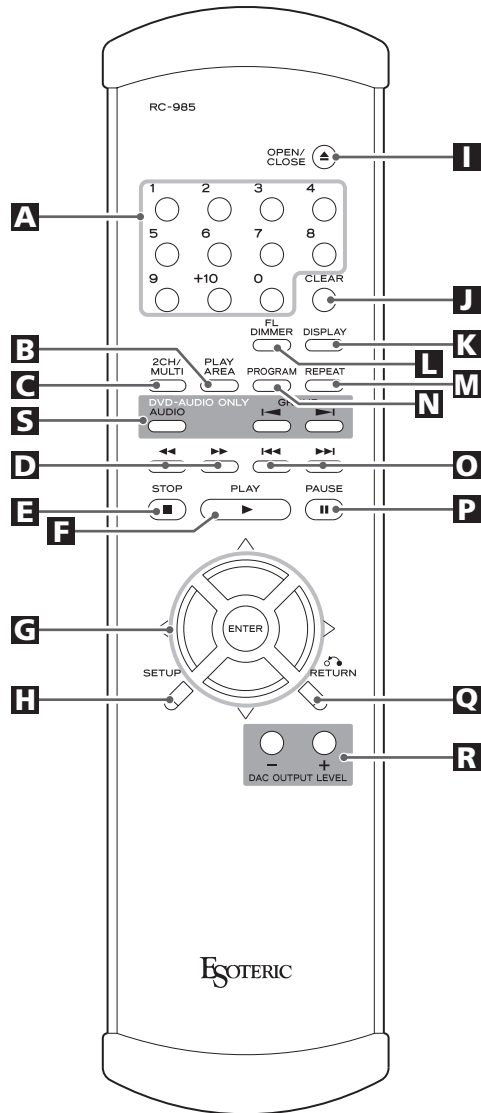
j 一時停止インジケーター

一時停止中に点灯します。(24ページ)

k 再生インジケーター

再生中に点灯します。(23ページ)

各部の名称（リモコン）

RC-985
OPEN/ CLOSE
1
2
3
4
5
6
7
8
9
+10
0
CLEAR
FL DIMMER
DISPLAY
2CH/ MULTI
PLAY AREA
PROGRAM
REPEAT
DVD-AUDIO ONLY
AUDIO
STOP
PLAY
PAUSE
ENTER
SETUP
RETURN
DAC OUTPUT LEVEL
ESOTERIC
A
B
C
S
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R

A 数字キー
選曲に使います。

B 再生エリアボタン [PLAY AREA]
SACDの再生エリアを切り換えます。(24ページ)

C 2チャンネル/マルチチャンネルボタン [2CH/MULTI]
音声出力の2チャンネル/マルチチャンネルを切り換えます。(27ページ)

D スキャンボタン [SCAN]
早送り/早戻しに使用します。(25ページ)

E 停止ボタン(■)
再生を停止します。(24ページ)

F 再生ボタン(►)
ディスクを再生します。(23ページ)

G 方向ボタン(上下左右)とENTERボタン
設定モードで使います。方向ボタンで項目を選択して、ENTERボタンで確定します。(31ページ)

H セットアップボタン [SETUP]
設定モードにするときに押します。(31ページ)

I オープン/クローズボタン(⏏)
ディスクトレーを開閉します。(24ページ)

J クリアボタン [CLEAR]
数字キーを押し間違えたときなどに使います。

K ディスプレーボタン [DISPLAY]
再生中または停止中にこのボタンを押すと、ディスプレーの表示が切り換わります。(28ページ)

L FLディマーボタン [FL DIMMER]
本体のディスプレーの明るさを4段階で調節できます。(28ページ)

M リピートボタン [REPEAT]
リピート再生に使用します。(27ページ)

N プログラムボタン [PROGRAM]
プログラム再生に使用します。(26ページ)

O スキップボタン(⏮/⏭)
前または後ろのトラックにスキップします。(25ページ)

P 一時停止ボタン(❚❚)
再生を一時停止します。(24ページ)

Q リターンボタン [RETURN]
設定モードになっているときにこのボタンを押すと、一つ上の項目に戻ります。(31ページ)

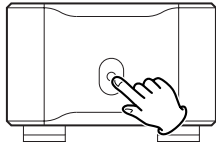
R DAC出力レベルボタン [DAC OUTPUT LEVEL]
別売のD/AコンバーターD-01の出力レベルを調節できます。このボタンを押すときは、リモコンの先端をD-01のディスプレーに向けてください。

S DVDオーディオ専用ボタン
以下のボタンはDVDオーディオ専用です。将来、P-01をバージョンアップすると使えるようになります。

オーディオボタン [AUDIO]
再生中にこのボタンを押すと、音声が切り換わります。

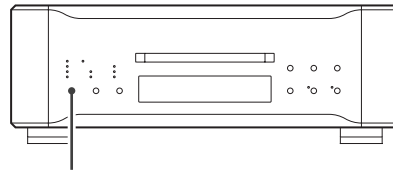
グループボタン [GROUP]
前または後ろのグループにスキップします。

基本操作

電源のオン/オフ

電源部の電源ボタン(POWER)を押すたびに、電源のオン/オフが切り換わります。オンのときは、電源ボタンの周囲と本体のディスプレーが点灯します。

● 本機を使用するときは、接続してある機器(D/Aコンバーター、アンプなど)の電源もオンにしてください。

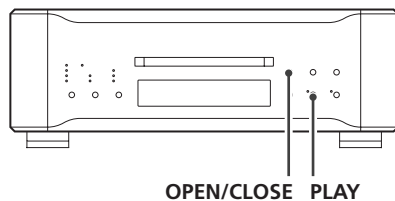
● WORDボタンをINまたはRb INに設定している場合、電源をオンにした直後はワード信号を検知できないため、ディスプレーに「WRD UNLOCK!」や「No Word!」が表示されますが、接続した機器の電源を入れて、ワード信号がロックされれば、表示は消えます。

デジタル出力の切り換え

OUTPUTボタンを押すたびに、デジタル出力が切り換わります。D/Aコンバーターが接続されている端子を選んでください。

● 選択した出力のインジケーターが点灯します。

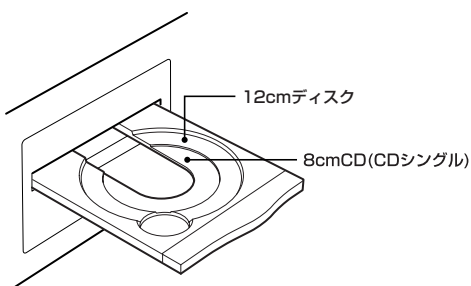
● XLR DUALが選択されていて、ディスクトレーにSACDがセットされている場合のみ、ES-LINKインジケーターが点灯します。電源をオフにしたり、CDをセットすると、ES-LINKインジケーターは消灯します。

● ES-LINKは、SACDのデジタル出力を可能にしたエソテリック独自のフォーマットです。
エソテリックのES-LINK対応のD/AコンバーターD-01と本機のXLR端子を接続し、XLR DUALを選択した状態でSACDを再生すると、自動的にES-LINKフォーマットでの出力となります。

再生　1

1 OPEN/CLOSEボタン(⏏)を押す。

ディスクトレーが手前に出ます。

● 本機はメカニズムの構造上、トレーが開く前にピックアップを最外周に移動しますので、トレーが開くまでに時間がかかります。

2 ディスクのレーベル面を上にしてトレーの中央にのせる。

● ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレーを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレーが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレーの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

3 OPEN/CLOSEボタン(⏏)を押す。

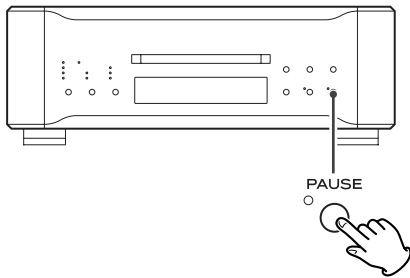
ディスクトレーが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

● ディスクの読み込みには多少時間がかかります。「LOADING」(ディスク読み込み中)が表示されたあと、ディスクの総曲数と総再生時間が表示されます。

4 PLAYボタン(►)を押す。

再生が始まります。

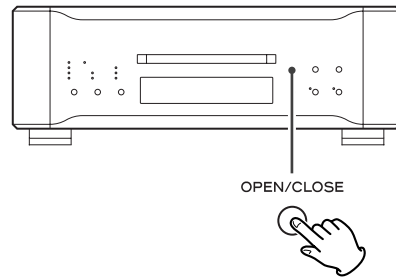
再生　2

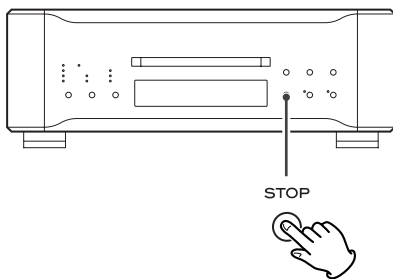
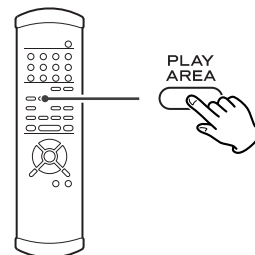
一時停止するには

再生中にPAUSEボタン(❚❚)を押すと再生が一時停止し、インジケーターが点灯します。

PLAYボタン(►)またはPAUSEボタン(❚❚)を押すと、再び再生が始まります。

再生をやめるには

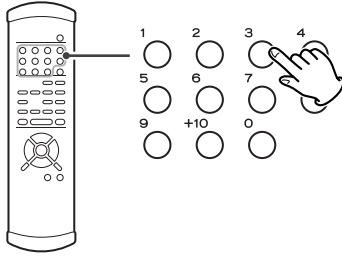
STOPボタン(■)を押すと再生が停止します。

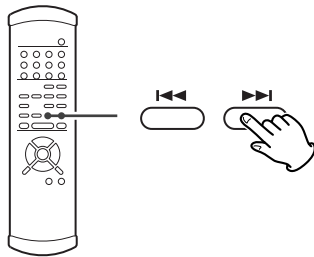
ディスクトレーを開閉するには

OPEN/CLOSEボタン(⏏)を押すとトレーが開き、もう一度押すと閉まります。

● ディスクの再生中にOPEN/CLOSEボタンを押した場合は、トレーが開くのに数秒かかります。

再生エリアを切り換えるには

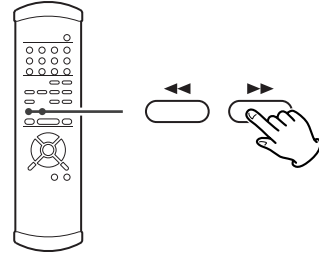
SACDには、2チャンネルとマルチなど複数のエリアを持つものや、SACDとCDの2層構造になっているものがあります。
停止中にリモコンのPLAY AREAボタンを押すと、SACDの再生エリアを切り換えることができます。

選　曲

数字キーで選んで再生するには

再生中または停止中に数字キーを押すと、その曲から再生を始めます。

スキップするには

再生中に本体またはリモコンのスキップボタン(I◀◀ / ▶▶I)を押すと、前または後ろの曲にスキップして再生を始めます。

- I◀◀ ボタンを1回押すと、再生中の曲の頭に戻ります。それより前に戻りたいときは、I◀◀ ボタンを続けて押してください。
  ただし、曲の最初の1秒以内でI◀◀ ボタンを押した場合は、前の曲にスキップします。
- 停止中または一時停止中にI◀◀ / ▶▶I ボタンを押すと、選んだ曲の頭で一時停止状態になります。

早送り/早戻しするには(スキャン)

再生中にリモコンのスキャンボタン(◀◀ / ▶▶)を押すと早送り/早戻しができます。聴きたい部分が見つかったら、PLAYボタン(▶)を押してください。

スキャンボタン(◀◀ / ▶▶)をくり返し押すと、早送り/早戻しの速度が3段階に変わります。

▶▶ ：早送り(1)→早送り(2)→早送り(3)→通常の再生

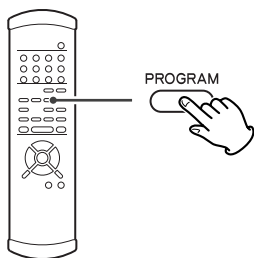
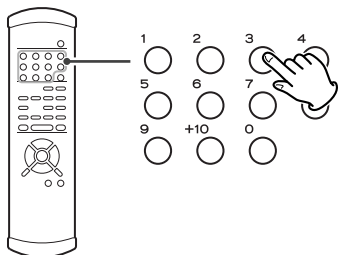
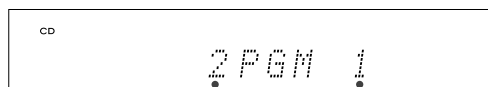
◀◀ ：早戻し(1)→早戻し(2)→早戻し(3)→通常の再生

- 本体の場合は、再生中にスキップボタン(I◀◀ / ▶▶I)を1秒以上押すと早送り/早戻しの速度が変わります。

プログラム再生

聴きたい曲を聴きたい順に、30曲までプログラムできます。

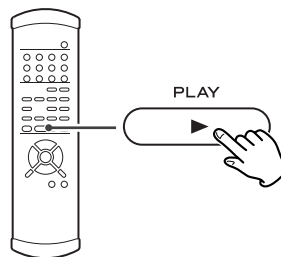
1 **停止中または再生中にPROGRAMボタンを押す。**

再生中の場合は、その曲が1番目にプログラムされます。

2 **数字キーでプログラムしたい曲番を選ぶ。**

3の場合 ：3
12の場合 ：+10→2
20の場合 ：+10→+10→0

複数の曲をプログラムするときは、続けて数字キーを押してください。

- 数字キーを押し間違えたときは、CLEARボタンを押すと最後にプログラムした曲だけを消去できます。
- そのディスクに存在しない番号はプログラムできません。

3 **プログラムが終わったら、PLAYボタン(►)を押す。**

プログラム再生が始まります。

- 再生中にプログラムした場合は、PLAYボタンを押す必要はありません。

プログラムを修正するには

CLEARボタンを押すと最後にプログラムした番号が消去できます。

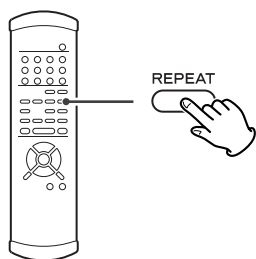
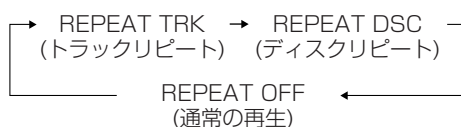
プログラムを追加するには

停止中または再生中に、数字キーで追加したい番号を選んでください。

通常の再生に戻るには

PROGRAMボタンを押すとプログラムモードは解除されます。プログラム再生中にPROGRAMボタンを押した場合は、そこから通常の再生に戻ります。

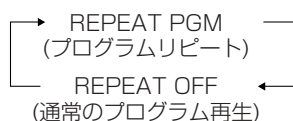
- プログラム内容は消去されます。
  また、OPEN/CLOSEボタンを押した場合もプログラム内容は消去されます。

リピート再生

再生中にREPEATボタンを押すたびに、リピートモードが変わります。

REPEAT TRK (トラックリピート)

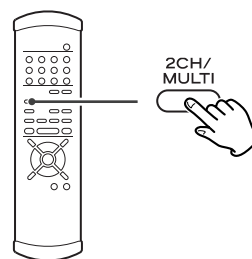
再生中の曲をくり返し再生します。リピート再生中に他の曲を選ぶと、その曲をくり返し再生します。

REPEAT DSC (ディスクリピート)

再生中のディスクの全曲をくり返し再生します。

プログラム再生中は、REPEATボタンを1回押すと、プログラムされている曲をくり返し再生します。

- 再生を停止するとリピート再生は解除されます。
- 以下のボタンを押すとリピート再生は解除されます。

  STOPボタン
  OPEN/CLOSEボタン
  電源ボタン

2ch/マルチchの切換

停止中に2CH/MULTIボタンを押すたびに、2CH/マルチCHの設定が切り換わります。

2ch

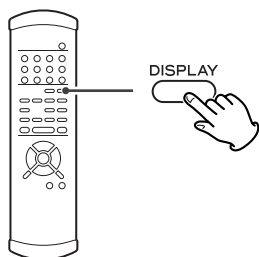
2チャンネルの音声を出力します。SACDのマルチチャンネルソースを再生すると、音声はフロントL、Rにダウンミックスされます。(ダウンミックスインジケーターが点灯します)

2台のD-01を使ってステレオ再生するときに選んでください。

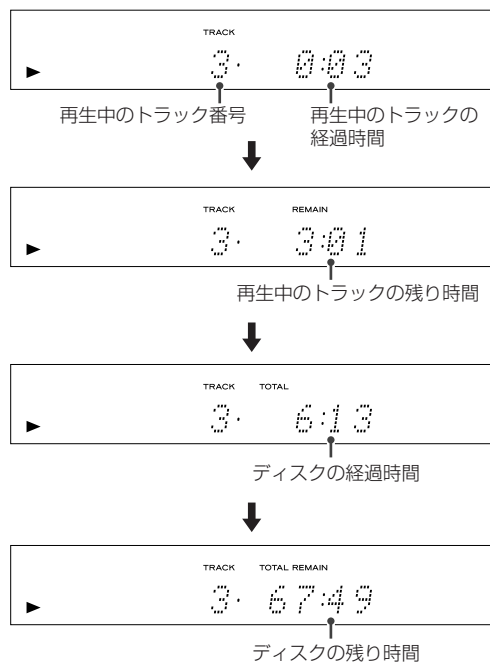
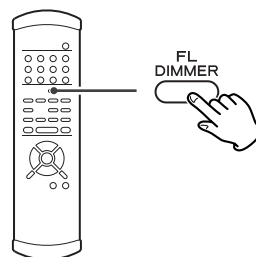
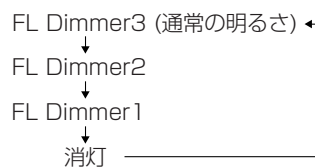
Multi ch (マルチCH)：

5.1チャンネルの独立した音声が出力されます。D-01を6台使用する場合、またはマルチチャンネルのD/AコンバーターとIEEE 1394で接続しているときに選んでください。

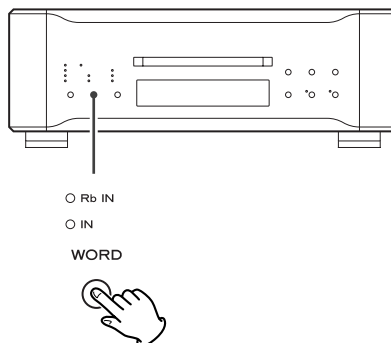
- 「Multi ch」に設定すると、5.1チャンネルインジケーターが点灯します。

ディスクの情報を見る

再生中または一時停止中にDISPLAYボタンを押すと、ディスプレーの表示が次のように切り換わります。

● 停止中はディスクの総曲数と総再生時間を表示します。

● プログラム再生中はディスプレーの表示を切り換えることはできません。

ディマー

本体のディスプレーとボタンインジケーターの明るさを4段階で調節できます。

● 消灯中に再生ボタンなどを押すと、約3秒間だけディスプレーが点灯します。

● 「消灯」を選んだ場合、電源をオフにすると消灯は解除され、次に電源を入れたときはDimmer1の明るさになります。

ワードシンク

エソテリックD-01やG-0/G-0sなど、外部同期信号(ワードクロック)を出力する機器と接続し、システムの同期(クロック)を一元化して再生するときや、内部クロックのかわりに高精度な外部クロックでシンク動作させるときに使用します。

本体のWORDボタンを押すたびにモードが切り換わります。

IN

一般的な外部クロック入力に対し、安定して動作するモードです。ただし、精度の高い同期を実現するために、ワードクロック入力周波数レンジは±15ppmと狭くなっておりますので、接続する機器の出力精度によっては同期できない場合があります。

Rb IN

ルビジウム発振器など、より高精度の外部クロックジェネレーターとの接続に最適化したモードで、ロック範囲が狭くなっています。
同期するまでの時間が長くかかることがあります。
「WRD UNLOCK!」という表示がでる場合は、「IN」に切り換えてください。

オフ

ワードシンクを使用しません。

- G-0sと接続した場合は「Rb IN」を、G-0/D-01/D-70と接続した場合は「IN」を選んでください。

- 本機は以下のクロックに対応しており、入力された信号によって自動的に切り換わります。
  44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、
  100kHz、176.4kHz、192kHz
  本機はユニバーサルクロック(100kHz)に対応しています。

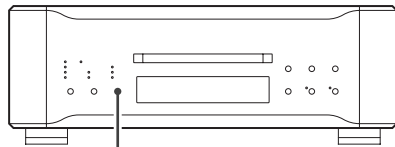
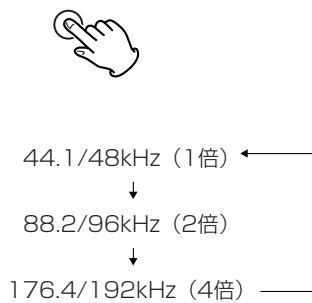
- 「IN」または「Rb IN」を選ぶと、インジケーターが点滅して外部クロックをサーチします。クロックを感知してロックすると点灯(青)に変わり、外部同期による再生が可能になります。

- あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。

- ワードシンクのオン/オフを切り換えると、D/Aコンバーターからノイズが出ることがあります。本機を停止して、アンプの音量を絞ってから操作してください。

アップコンバート

CDの44.1/48kHzのサンプリング周波数を、1倍、2倍または4倍にアップコンバートして出力することができます。

アップコンバートボタンを押すたびに、モードが切り換わります。

● アップコンバートしないときは、1倍を選んでください。

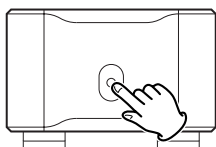
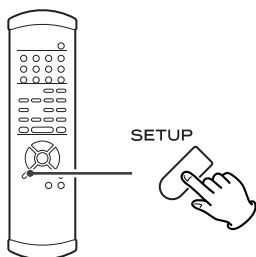
● SACDは、DSD信号(1bit 64fs)をそのまま出力しますので、アップコンバートしません。

● OUTPUT(22ページ)がXLR DUALに設定されているときに4倍(176.4/192kHz)を選ぶと、各XLR端子から88.2kHzの信号を出力します。

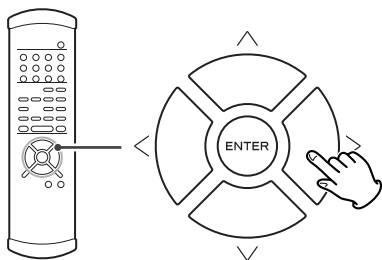
● OUTPUT(22ページ)がXLR DUALに設定されているときに1倍を選ぶと、44.1/48インジケーターが点滅し、音声を出力できません。2倍または4倍を選んでください。

● DIGITAL OUT(NORMAL)端子からは、アップコンバートした信号は出力されません。

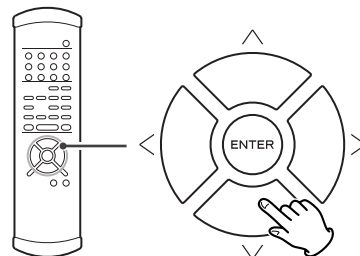
設定について

1 電源部の電源を入れる。

2 SETUPボタンを押す。

設定モードになり、ディスプレーに最初の項目(AudioSetup)が表示されます。

- ディスクの再生中でも設定モードにできますが、変更できない項目があります。変更したい場合は再生を停止してください。
- 設定モードを中断する場合は、もう一度SETUPボタンを押してください。

3 方向ボタンで設定する項目を選ぶ。

- 設定項目は何層にもなっていますので、次のページの表を参照して方向ボタンで選んでください。
  最下層の選択肢には、ディスプレーの表示の最初に「>」が付いています。

  戻るときには、方向ボタン(左と上)を押すかわりに、RETURNボタンでも上位の項目に移動します。

4 方向ボタン(上下)で設定したい選択肢を選んでENTERボタンを押す。

各設定内容については、33〜35ページをお読みください。
数値を設定する場合は、方向ボタン(上下)で変わります。(ENTERボタンを押す必要はありません)

複数の項目を設定する場合は、3〜4の操作をくり返してください。

5 設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了する。

AudioSetup
(音声設定)
GeneralSet
(環境設定)
2ch/Multi
(2ch/マルチch切換)
各選択肢へ
D-OUT Norm
(デジタル出力端子
(NORMAL)の設定)
各選択肢へ
CD Direct
(CDダイレクト)
各選択肢へ
SP Setup
(スピーカー設定)
SP Size
(スピーカーサイズ)
L/R Size
(フロント)
各選択肢へ
C Size
(センター)
各選択肢へ
SR/SL Size
(サラウンド)
各選択肢へ
SW ON/OFF
(サブウーハー)
各選択肢へ
Distance
(スピーカー距離)
L/R *.*m
(フロント)
数値入力画面へ
C *.*m
(センター)
数値入力画面へ
SR/SL *.*m
(サラウンド)
数値入力画面へ
SP Level
(スピーカーレベル)
LR ***.*dB
(フロント)
数値入力画面へ
C ***.*dB
(センター)
数値入力画面へ
SR ***.*-dB
(サラウンド右)
数値入力画面へ
SL ***.*dB
(サラウンド左)
数値入力画面へ
SW ***.*dB
(サブウーハー)
数値入力画面へ
Test Start
(テストトーン開始)
Test Tone
(テストトーン長さ)
各選択肢へ

音声設定

2ch/マルチchの切換 (2ch/Multi)

＞のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

2ch (ステレオ、出荷時の設定)：
2チャンネルの音声を出力します。マルチチャンネルの音声は、2チャンネルにダウンミックスして出力します。
2台のD-01を使ってステレオ再生するときに選んでください。

Multi ch (マルチCH)：
5.1チャンネルの独立した音声が出力されます。D-01を6台使用する場合、またはマルチチャンネルのD/AコンバーターとIEEE 1394で接続しているときに選んでください。

デジタル出力端子(NORMAL)の設定 (D-OUT Norm)

＞のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

ON (オン)：
デジタル出力端子(NORMAL)から音声を出力します。デジタル出力端子(NORMAL)に機器が接続されているときは、「ON」にしてください。

OFF (オフ、出荷時の設定)：
デジタル出力端子(NORMAL)から音声を出力しません。より良い音質のために、デジタル出力端子(NORMAL)を使わないときは「OFF」にしてください。

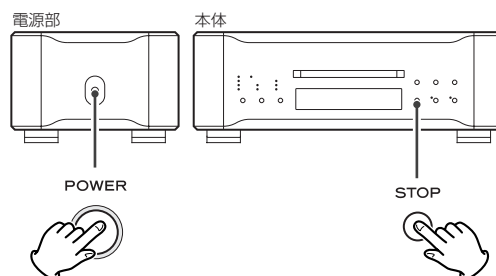
- デジタル出力端子(NORMAL)からは、アップコンバートした信号や、SACDのデジタル音声を出力することはできません。

CDダイレクト (CD Direct)

＞のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

Direct (ダイレクト、出荷時の設定)：
スピーカー設定などの回路をバイパスします。2チャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

Normal (ノーマル)：
本機でスピーカー設定をしてマルチチャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

工場出荷時の状態に戻すには

設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

電源がオフの状態で、本体のSTOPボタンを押しながら電源ボタンを押して電源を入れると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

スピーカー設定

スピーカーのサイズ設定 (SP Size)

フロントスピーカー(L/R)、センタースピーカー(C)、サラウンドスピーカー(SR/SL)、サブウーハー(SW)を別々に設定できます。
＞のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

Large (ラージ、出荷時の設定)：
低音まで再生できる大きいスピーカーを使う場合は、こちらを選択してください。

Small (スモール)：
小さいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。「Small」を選択したチャンネルの低音はサブウーハーから出力されます。

OFF (なし)：
そのチャンネルのスピーカーを使わない場合、「OFF」を選択してください。「OFF」に設定したチャンネルの音声は他のチャンネルに振り分けられます。
● L/Rは「OFF」にできません。

ON (あり、出荷時の設定)：
サブウーハーを使用する場合は「ON」を選んでください。

● フロントスピーカーの「Small」とサブウーハーの「OFF」は同時には選択できません。

スピーカーのレベル調節 (SP Level)

各スピーカーのバランスを調節します。

各項目の数値を方向ボタン(上下)で変更してください。
各スピーカーとも、－12dB～6dBの範囲で0.5dB刻みで調節できます。

L/R ：フロントスピーカー
C ：センタースピーカー
SR ：サラウンドスピーカー右
SL ：サラウンドスピーカー左
SW ：サブウーハー

「スピーカーの距離設定」、「テストトーン開始」、「テストトーンの長さ」は、将来P-01のバージョンアップでDVDオーディオに対応したときに必要になる設定です。

CD/SACDの再生には関係ありませんので、本機をバージョンアップしていない場合は、設定する必要はありません。

スピーカーの距離設定 (Distance)

同一サイズのスピーカーを視聴位置から等距離に配置するのが理想です。等距離に置けない場合、視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。

各項目の数値を方向ボタン(上下)で変更してください。

フロントスピーカー (L/R)：
0.3m〜9.0mの範囲で0.1m刻みで設定できます。工場出荷時は3mに設定されています。

センタースピーカー (C)：
フロントスピーカーの設定より1.7m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。
工場出荷時の設定では、フロントスピーカーの設定と同じ値になります。

サラウンドスピーカー (SR/SL)：
フロントスピーカーの設定より10.0m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。
工場出荷時の設定では、フロントスピーカーの設定と同じ値になります。

● L/Rの設定値を変更すると、CとSR/SLの設定値も同時に変わります。L/Rを設定してからCとSR/SLを設定してください。
● L/Rの距離が設定範囲外のときは、CとL/R、SR/SLとL/Rの差が合うように数値を設定してください。

テストトーン開始 (Test Start)

テストトーンを使うと、各スピーカーからの音を聴きながらレベルを調節できます。

1. 「Test Start」の項目を表示して、ENTERボタンを押します。

2. 音を聴きながら、方向ボタン(上下)で各スピーカーの項目に移動し、方向ボタン(右)を押します。

3. 方向ボタン(上下)で各項目の数値を調節してください。

● 上位の項目に移動すると、テストトーンは停止します。
● テストトーンの音量が小さくて聞こえない場合、または大きすぎる場合は、アンプ側で音量を調節してください。

テストトーンの長さ (Test tone)

レベル調節のときに出力するテストトーンの長さを変えることができます。方向ボタンでお好みの長さを選んでENTERボタンを押してください。
＞のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

2sec(2秒)、5sec(5秒)、10sec(10秒)から選ぶことができます。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源が入らない。
➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
➡ 電源部の電源ボタンを押してオンにしてください。
➡ 電源部と本体の接続を確認してください。

リモコンで操作できない。
➡ 電源部の電源をオンにしてください。(22ページ)
➡ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。(17ページ)
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から7メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。(17ページ)

テレビなどが誤動作する。
➡ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

再生できない。
➡ ディスクをトレーの中心に正しくセットしてください。(23ページ)
➡ ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。(23ページ)
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。(8ページ)
➡ 本機の内部が結露している場合は、電源を入れて1、2時間放置してください。(8ページ)

ボタンを押しても反応しない。
➡ 続けてボタンを押すと、機械側が対応できずに動作しないことがあります。ボタンを押すときは、機械が反応するまで少しお待ちください。

雑音がする。
➡ テレビなど強い磁気を帯びたものからはできるだけ離して設置してください。

スピーカーから音が出ない。音が歪む。
➡ D/Aコンバーター、アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(10ページ)
➡ アンプなどの音量を調節してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ デジタル出力端子(NORMAL)と接続しているときは、「D-OUT Norm」の設定を「ON」にしてください。(33ページ)
➡ 一時停止中は音が出ません。再生ボタンを押して通常の再生に戻してください。

SACDのマルチチャンネル音声を出力できない。
➡ SACDのデジタル音声を出力するためには、エソテリックのES-LINK対応のD/Aコンバーター(D-01)、またはIEEE 1394端子のあるD/Aコンバーターが必要です。
➡ 「2ch/Multi」の設定を「Multi ch」にしてください。または、リモコンの2CH/MULTIボタンで設定を変更してください。(27, 33ページ)

WORDインジケーターが点滅する。
➡ ワードクロックが入力されてない時は、ワードシンクはオフにしてください。(29ページ)
➡ 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

「No Word!」が表示される。
➡ ワードクロックが入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
➡ ワードクロックが入力されてない時は、ワードシンクはオフにしてください。(29ページ)

「Word Error」が表示される。
➡ 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

「WRD UNLOCK!」が表示される。
➡ 入力されているワードクロックをロックできません。「Rb IN」で同期が取れない場合、「IN」に切り換えてみてください。(29ページ)

ディスクトレーの開閉時に「TRAY ERR!」が表示される。
➡ ディスクトレーの前に障害物があったり、ディスクが正しくセットされていないと、開閉の途中でトレーが止まり、「TRAY ERR!」が表示されます。原因を取り除いてからOPEN/CLOSEボタンを押せば、トレーは元の位置に戻ります。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

ブロック・ダイアグラム

VRDS-NEOメカニズム
Moter Driver
RF Amp
MCK
Front End DSP
DSD Decorder
SACD
Back End DSP
PCM Audio DSP
CD/(DVD-A)
RCA (NORMAL)
MCK
WORD IN
Word IN PLL
Master Clock X'tal
MCK
XLR (L)
Digital Audio I/F Transmitter
MCK
ES-LINK Encorder
DSRLL III UPCONVERTER (L/R)
PCM
XLR (R)
Digital Audio I/F Transmitter
DSD
RCA (L/R)
XLR (C)
Digital Audio I/F Transmitter
MCK
ES-LINK Encorder
DSRLL III UPCONVERTER (LS/RS)
PCM
XLR (SW)
Digital Audio I/F Transmitter
DSD
RCA (C/SW)
XLR (SL)
Digital Audio I/F Transmitter
MCK
ES-LINK Encorder
DSRLL III UPCONVERTER (C/LFE)
PCM
XLR (SR)
Digital Audio I/F Transmitter
DSD
RCA (SL/SR)

仕　様

再生可能ディスク

SACD、CD、CD-R、CD-RW

一般

電源. . . . . 100V AC 50-60Hz
消費電力 29W
外形寸法(WxHxD、突起部含まず)
　本体. . . . . 445mm×158mm×420mm
　電源部 . . . . 240mm×158mm×420mm

質量
　本体 28kg
　電源部. 16kg

許容動作温度 . . . . +5℃～+35℃
許容動作湿度. . . . . 5%～85%(結露のないこと)
許容保管温度 . . . . −20℃～+55℃

デジタル出力

IEEE1394×2系統

XLR×1系統
　ES-LINK出力時：L, R, C, SW, LS, RSの6端子を使用
　Dual AES出力時：L, Rの2端子を使用
　XLR出力時：L/R端子を使用

RCA×1系統（L/R端子を使用）

RCA(NORMAL)×1系統

現時点では、RCAのC/SW端子とLS/RS端子からはデジタル音声を出力しません。ES-LINK対応機器が接続されていない場合は、XLRのC/SW端子とLS/RS端子からもデジタル音声を出力しません。将来、バージョンアップしてDVDオーディオの再生が可能になると、DVDオーディオのマルチチャンネルのデジタル音声を出力できるようになります。

ワードシンク入力フォーマット

端子. . . . . BNC×1
入力可能周波数 (矩形波)
　44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、
　100kHz、176.4kHz、192kHz
入力レベル 4.5Vp-p/75Ω
ワードクロック入力周波数レンジ
　INモード. . . . . ±15ppm
　Rb INモードは、ルビジウム発振器などの超高精度クロック用です。

付属品

電源コード×1
DC電源接続コード
リモコン(RC-985)×1
リモコン用乾電池(単3)×2本
フェルト×8枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定法によるものです。

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

36ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料　：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代　：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：SACD/CDトランスポート　P-01
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550　東京都武蔵野市中町3-7-3　http://www.teac.co.jp/av

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550　東京都武蔵野市中町3-7-3
電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7
電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

PRINTED IN JAPAN　0904·MA-0930A